

(追) コラーゲンペプチド含有飲料の健常者における皮膚粘弾性への影響

梶原伸子、寺山貴子、速水耕介、辻智子
株式会社ファンケル 中央研究所

目的

近年、美容への効果を目的にしたコラーゲン含有飲食物が多数上市されているが、経口摂取による効果を臨床的に検証した報告はない。我々は酵素分解コラーゲンペプチド5gを配合した飲料を健常成人女性を対象に5週間（追跡調査として一部10週間）に渡り連続的に服用させ、皮膚柔軟性、弾力性（以下皮膚粘弾性）および角層水分量を観察する事により客観的手法による効果の検証を試みた。

方法

皮膚粘弾性は、Courage+Khazaka Electronic GmbH 社製「Cutometer SEM 575」を用い、皮膚柔軟性及び皮膚弾力性を測定した。皮膚表面の水分測定はCourage+Khazaka Electronic GmbH 社製「Corneometer」を用い、角層水分量を測定した。

結果

本試験に参加した対象者は22歳から58歳までの48例で平均年齢は 37.1 ± 10.8 歳であった。皮膚柔軟性は増加を認め、特に20-39歳までの対象者は摂取2週目以降から有意な増加（ $p < 0.05$ ）を認めている。40-59歳までの対象者でも摂取5週目で有意な増加（ $p < 0.01$ ）が見られた。皮膚弾力性は、20-39歳までの被験者に変化が見られなかったものの、40-59歳までの被験者では、10週目で増加（ $p < 0.05$ ）が見られた。角層の水分量では有意な差は認められなかった。

考察

コラーゲンは真皮の約70%を占めるが、加齢や光老化により減少することが知られており、老化に伴うしわ・たるみなど相貌の変化に大きな影響を及ぼす。我々の試験でも皮膚弾力性が年齢と負の相関を示しており、老化に伴ない変化する指標の一つであることが確認された。コラーゲンペプチド含有飲料の摂取により40-59歳の皮膚弾力性が20-39歳の被験者の測定値に近づく傾向が見られ、特に弾力性に関してはアンチエイジング効果があったと考えられる。